

平成 28 年度 「認定こども園 信濃ひまわり幼稚園 自己点検評価と関係者評価」

1、＜平成 28 年度の重点目標＞（※ 27 年度目標を継続）

【教育目標】

「ひまわりのように明るく元気な子ども」に育つこと

- 1、 心身ともにたくましい健康な子ども
- 2、 情操豊かな創造力に富んだ子ども
- 3、 集団の中で自立性、協調性をもって行動できる子ども
- 4、 よく遊び、よく学ぶ思いやりのある子ども

【活動目標】

- 1、 明るく元気な挨拶をする
- 2、 園の方針、約束を守り、職員同士連携をとり、温かい雰囲気保育を行う
- 3、 預かり保育を安全に楽しい時間とし、保育教材の充実をはかる
- 4、 報告、伝達は正確に、事務処理は漏れの無いように行う
- 5、 トイレ掃除他、衛生面に気を配り、環境整備に心がける

2、評価の基準

- A <十分達成できた> 優れた（水準・内容・環境・対応）である。
- B <概ね達成できた> 妥当な（水準・内容・環境・対応）である。
- C <あまり達成できなかった> やや不十分な（水準・内容・環境・対応）で改善を要す。
- D <ほとんど達成できなかった> 不十分な（水準・内容・環境・対応）であり一層の改善を要す。

(2017.03.31)

評価項目	自己点検評価の内容	自己評価	関係者評価
I、教育の内容	1 園の建学精神、教育理念、教育方針を理解している。	B	A
	2 幼稚園教育要領を理解している。	B	B
	3 教育課程の編成は適切である。	B	A
	4 保育計画の作成は適切である。	A	A
	5 保育環境は適切である。	A	A
	6 保育計画の点検評価は適切である。	B	A
II、保育の在り方と幼児への対応	1 健康と安全への配慮は適切である。	A	A
	2 幼児のみとりと理解は適切である。	A	A
	3 幼児への指導・関わりは適切である。	A	A
	4 教員相互の協力連携は適切である。	B	A
III、教師としての資質や能力・良識・適正	1 専門家としての能力・良識・義務は適切である。	A	A
	2 組織の一員としての在り方は適切である。	A	A
	3 保育に楽しみ、喜びを感じられる。	A	A
	4 身近なこと、社会情勢などを感じ取るアンテナ、感性は備わっている。	A	A
IV、保護者への対応	1 保護者への情報の発信と受信は適切である。	B	A

	2 園全体で協力、支援体制ができ、保護者対応は適切である。	A	A
	3 守秘義務の遵守は適切である。	A	A
	4 対応上のマナー、良識は適切である。	A	A
	5 クレームの対処は適切である。	A	A
V、地域の自然、人々との のかかわり	1 地域の自然、人々とのかかわりは適切である。	B	B
	2 小学校との連携は適切である。	B	B
	3 園施設、人材の地域への開放、支援は適切である。	B	B
VI、研修と研究	1 研修・研究への意欲・態度は適切である。	B	A
	2 教師としての専門性に関する研修、研究は適切である。	B	B
	3 遊具、教材に関する研修、研究は適切である。	A	A
	4 園内の環境に関する研修、研究は適切である。	B	A
	5 今日的課題（障害児ケア・危機管理他）に関する研修、研究は適切である。	B	B
	6 自らを高めるための学習は適切である。	B	A
VII、重点目標	1 重点目標の設定と実行	A	A
VIII、総 合		A	A

自己評価 A 評価 53% B 評価 47% C 評価 0% D 評価 0%

関係者評価 A 評価 80% B 評価 20% C 評価 0% D 評価 0%

3、関係者評価（活動目標の達成度と成果）

I 教育の内容

0歳児から5歳児まで認定こども園の一貫した教育課程・保育計画が整備されたため保育教育共に有効に機能し、成果を収めている。統一行事や異学年の交流も計画的に実施され成果が上がっている。教育理念・方針、また課程・保育計画・保健健康等広く園内・園外において学習機会を設け保育に反映されている。

施設設備も全室にエアコンが配備され保育環境が改善された。

II 保育の在り方と幼児への対応

園長・主幹保育教諭・未満児担当主任保育教諭・幼児担当主任保育教諭を配置して指導管理の強化を図ると共に保育の質や計画に改善が行われ全職員が一体となった保育が実践された。保護者の評価（アンケート）もA優れている56% B概ね妥当だ38% C一部改善を望む6% D評価できない0%であり及第となっている。クラスを越えて全園児を全職員が見守る伝統が良く継承されている。

III 教師としての資質や能力・良識・適正

教職としての意識は高く資質、能力、良識、適性すべてにおいて十分な水準と評価した。職員構成は新卒者から60代までバランスが取れた配置となっており、経験に基づいたノウハウの伝授、教職者としての意識の継承も成果を上げている。

IV 保護者への対応

保護者の評価はA優れている45% B概ね妥当だ47% C一部改善を望む8% D評価できない0%であり及第となっている。認定こども園は幼稚園に比べ広範な保育ニーズがあることから満足度の向上には一層のきめ細やかな対応が必要である。

V 地域との関わり

地区行事への参加、小学校・保育所との交流、老人福祉施設への訪問交流、園行事への地区委員・住民の参加など積極的な取組により地域とよく連携し良好な関係が構築されている。

VI 研修と研究

職員配置に若干の余裕が生じ、外部研修への参加も多少可能となった。伝達講習の徹底を図りながら、個々のキャリアアップが行えるよう、引き続き努力していきたい。

VII 重点目標

昨年度成果があったことから今年も継続し2年連続の活動目標とした。担当する年齢の担当替えにより全職員間交流の理解・協調・信頼が進み一体感が生まれた。

連携が進んだことから情報が共有でき、連絡不備等が大きく改善できた。

衛生面においては施設の部分改修が行われ、また掃除も丁寧に行われ清潔に保たれた。

VIII 総 合

多彩な保育ニーズ、異なる保育時間、保育・教育共に配慮が必要な「認定こども園」の性質上、課程、保育計画、行事、保護者の参加日程ほか調整の難しさを真摯に受けとめ、できる限り多くの方々に満足いただけるような保育と教育の提供を目指す。ただ最大公約数なサービスに留まることなくできる限り個々の立場と思いに沿って温かな対応を今後も継続して欲しい。

4、平成 29 年度への課題

新制度に基づく「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が公示され2歳児から3歳児、5歳児から小学校への接続に向けた配慮が示された。

これを反映した保育課程、保育計画の見直しを行い、全職員が理解、実践できる体制の整備が求められる。また、多様な保護者ニーズへの対応、子育て支援の充実など対応すべき課題が山積している。対応策として29年度より副園長1名、主幹保育教諭2名、選任事務員1名を配置する。

また保育教諭の増配により個々の園児に行き届いた保育教育が行われるよう期待する。

5、平成 29 年度活動目標

- 1 明るく元気な挨拶をする
- 2 園の方針、約束事を守り、職員同士連携をとり、温かい雰囲気で行う
- 3 預かり保育を安全に楽しい時間とし、保育教材の充実をはかる
報告、伝達は正確に、事務処理は漏れのないように行う。
- 4 トイレ掃除他、衛生面に気を配り、環境整備に心掛ける
- 5 ヒヤリ・ハット報告を徹底することにより、今後の対応を共通理解し、けが事故を未然に防ぐための意識を高める